佐藤高清 議員

風化しつつある伊勢湾台風から50年 次世代にどう啓発していくのか

問 21年は伊勢湾台風から50年という節目にあたるが、次の事項を尋ねる。

(1) 市はどんな計画で、風化しつつある台風を次の世代に啓発していくのか。

(2) (台風を特集した)昭和34年の県政ニュースのDVDや、国は40年の節目に記録冊子を配っている。ソフト面で後世に啓発していったらどうか。

県総合防災訓練を6月に開催予定

答 防災安全課長

(1) 20年に50回忌法要が行われた。同台風殉難者遺族会解散に伴う区切りの年でもあり、今後は同台風殉難之塔(=写真・操出地内)を保存し、市で管理していく。

現在、木曽川グランドを会場とした県総合防災訓練を21年6月に実施することが内定している。

さらに従来のコミュニティー単位の訓練に代え、市主催の総合防災訓練を21年9月に実施する予定である。

答 市長

(2) 飛島村が記念行事【☞】をやっていく考えもあるようである。近隣市町村と検討し、いろんなことを精査していきたい。

☞ 飛島村、県、海部地域市町の共催で、同台風を振り返る事業。現在計画中である。

三ツ又池での市民活動への支援は

問 三ツ又池地区【☞】・関連記事11・14面】での市民活動に対する支援について聞く。

計画を立てた当時、池はせっけんの泡だらけで、何とか伊勢湾台風前のようにヨシが生えるよう復元できないかを議論した記憶がある。

事業の進む間、雑草(が目立つ)という問題が起き、環境が良くなったのか悪くなったのか分からない公園になった。

イメージが悪いということで、20年に地元の人がごみを拾い、除草作業をした。継続的にやろうと人が集まりつつある中で、市はどんな形で受け入れるのか。

☞ 十四山地区を流れる宝川の遊水池「三ツ又池」周辺(子宝地内ほか)を、県が整備を行っている。

池を除く面積は約6.7ha、事業費は約29億円。20年度中に市が譲渡を受ける。

具体的な支援は今後の検討を要する

答 企画政策課長

総合計画のキーワードに、協働を用いて市民参画を促進する施策を進めることとしている。

具体的な支援は今後の検討を要するが、例えば意識醸成のための広報、イベント活動の推進、活動拠点施設の整備や運営方法の検討、相談窓口の充実、ボランティア、NPO、総合ネットワークづくり、情報提供などが考えられる。